

2026年4月22日 第550号

憲法共同センターNEWS

戦争する国づくりストップ！憲法を守り・いかす共同センター
〒113-8462 文京区湯島 2-4-4 全労連会館 03-5842-5611 (FAX 5842-5620)
<http://www.kyodo-center.jp> mail: move@zenroren.gr.jp

「9条署名」キックオフペンライト集会

「9条署名」スタート！全国で大きく広めよう！

4月16日、憲法共同センターも呼びかけ団体となっている「私たちは戦争につながる憲法改悪に反対します—憲法9条改悪に反対する請願署名」の開始にあたり、新宿駅東南口で「9条署名キックオフペンライト集会」を行いました。300人以上が参加し、187人分の署名が寄せられました。



「国際情勢の緊張が軍備拡張に利用されている」と警鐘

政治学者の中野晃一さんは、改憲の動きが国際情勢の緊迫化と密接に結びついている現状を問題視しました。日本が戦後、直接的な戦争に関与してこなかったのは憲法9条の存在があったからだとして述べ、その前提が揺らいでいることに懸念を示しました。また、現在の国会構成が必ずしも民意を反映していないと指摘し、「黙ってはいけません」と訴えました。台湾有事などの議論が軍事力強化の正当化に使われていると批判し、署名や街頭活動で国民の意思を明確に示すことが、政治への圧力になると強調しました。

歴史の教訓から問う、「力による対立」への回帰

翻訳家の池田香代子さんは、第二次世界大戦の惨禍と、その反省から生まれた国際法や国連の歩みを振り返りました。日本国憲法もその平和への潮流の中で成立したと説明する一方、現在は国際法が軽視され、再び力による対立が世界的に広がっているとし、「この流れに乗ってはいけません」と述べ、日本が改憲に踏み切ることは国際社会にも悪影響を及ぼすと警鐘を鳴らしました。戦

争放棄の理念を堅持することこそが、日本が国際協調の中で平和を追求するための重要な役割であると、歴史的視点から強く訴えました。

政治の優先順位「軍事よりまず暮らしを」

弁護士の瀬川孝さんは、家賃高騰や物価上昇に苦しむ市民の切実な現状を報告しました。多くの人が生活基盤に不安を抱える中で、防衛費が大幅に増額されている現状に対し、政治の優先順位が適切であるのかと疑問を呈しました。「まず暮らしを守るべきです」と述べ、真の安全保障とは軍事力の強化ではなく、人々が安心して生活できる環境を整えることだと強調しました。戦争を未然に防ぐためには、軍備に頼るのではなく、外交や対話を重視する姿勢こそが不可欠であると訴えました。

自衛官の家族が訴え「誰も傷ついてほしくない」

参加した女性は、自衛隊員として働く弟への思いを語りました。大切な人の命が危険にさらされることへの懸念を訴え、「人を助けるために自衛隊に入った弟の優しさが、戦争によって踏みにじられることは耐えられない」とし、「誰も傷ついてほしくない」と言葉を詰まらせながら訴えました。自らの体験に基づいたこの切実な叫びは、戦争がもたらす悲劇に参加者に想起させ、平和を維持することの重みを浮き彫りにしました。

改憲案の真意「将来的な権限拡大の恐れ」

憲法学者の清水雅彦さんは、自衛隊を憲法に明記する案について専門的な見地から解説を行いました。この改正案は単なる現状の追認にとどまらず、将来的に自衛隊の権限を大きく拡大させる起点になる可能性があるとして指摘し、国民に慎重な判断を求めました。「これは大きな転換です」と述べ、多数決の論理だけでなく市民の声が政治を動かす重要な要素であると訴えました。署名活動や集会を通じて形成された世論が、改憲発議を阻止する力になるとし、継続的な市民参加が民主主義を守る鍵であるとし、「今後の選挙で政権交代を目指しましょう」と呼びかけました。



【当面の行動】	
4月25日(土) 14:00~	5.3 憲法集会宣伝…新宿駅東南口
5月3日(日) 11:00~	2026 憲法大集会…有明防災公園
5月8日(金) 12:00~	9の日宣伝…新宿駅東南口
5月19日(火) 18:30~	19日行動…国会正門前

「9条署名」、チラシ
下記よりダウンロードして
ご活用ください
<https://www.kyodo-center.jp/>

共同センター